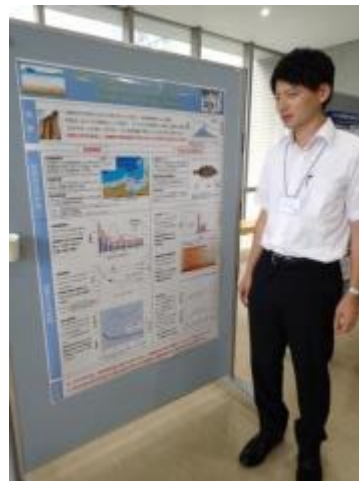
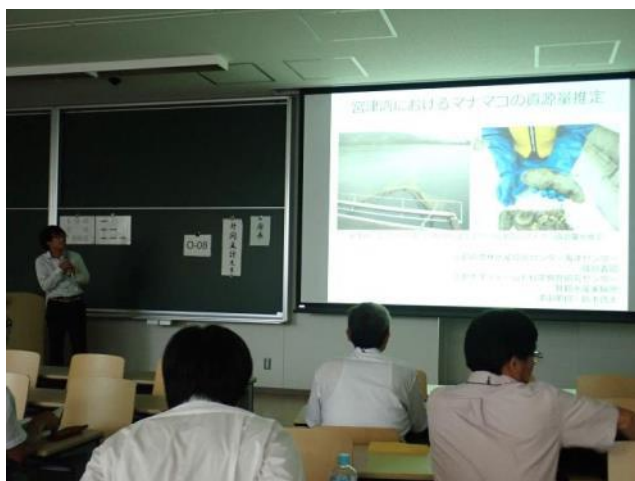


日本水産増殖学会にて研究成果を発表

9月1日に日本大学生物資源科学部にて平成30年度日本水産増殖学会第17回大会が開催され、当センター職員2名がそれぞれの研究成果について発表しました。

一つは、宮津湾のナマコ資源について、宮津なまこ組合の漁業者が漁獲規制等の自主管理を取り入れたことにより、一度は減少した資源が回復傾向にあることを報告しました。もう一つは京都府沖合のヤナギムシガレイ資源について、底曳網漁業で用いられる魚網の網目サイズ拡大による生産額の増加効果について報告しました。

両発表とも活発な議論がなされ、他県水産試験場の発表者からは、宮津なまこ組合の取組を高く評価する意見が挙がりました。今後も積極的に学会等に参加し、当センターの研究成果の発信と情報収集に努めます。



ナマコ資源調査の発表を熱心に聞き入る参加者（左）
ヤナギムシガレイ資源管理について研究員がPR（右）